

② うつろ堰ぜき（会津本郷町）

慶長2年（1597年），柳久保村（今の柳西）に住む高橋徳元は，水の便が悪いこの地区へ阿賀川の水を引く事業を私財をなげうって始めました。

28年間にもおよぶこんな工事の結果，水路の長さ4キロメートルの「うつろ堰」を完成させました。村人たちは，その苦勞に感謝して，柳西の山ぎわにお堂と墓碑を建てました。現在ではまったく使われなくなり，わずかに跡だけが残っています。



▲うつろ堰の碑

③ 栗村堰くりむらぜき（新鶴村）

元弘元年（1331年）に，栗村（今の坂下町柳町）に住む栗村盛満もりみつが，水田を開かいこんするために，旧宮川（鶴沼川）から水を引き入れる工事を始めました。工事は子から孫へと三代に引き継がれたのです。堰の完成とともに次々と田んぼや畑が開かれ，新しい村が，いくつもできました。



現在は，新鶴村の和泉新田いずみしんでんの近くの旧宮川（鶴沼川）から水を引き入れ，坂下町の八幡，川西地区まで水路がのびています。